

第1学年7組 国語科学習指導案

学校名： 飯塚市立飯塚第一中学校

授業者： 島田 莉帆

1. 単元名 伝統に触れる「竹取物語」 7 / 8 時間

2. 授業のねらい

本単元は「かぐや姫」の物語として広く知られている作品であり、中学校での古典の導入教材としてふさわしいものである。古人のものの見方・考え方にふれ、今と昔の相違点や今も昔も変わらないものについて考えさせることにより、自分自身の考えを広げることをねらいとしている。

したがって本単元では古典の原文に触れ、音読、暗唱などの学習活動により、歴史的仮名遣いに慣れ、古文独特の歯切れの良いリズムを味わわせることにより古文に対する興味・関心を培う。

教科書には、翁が竹の中から女の子（後のかぐや姫）を見つける冒頭場面と、五人の貴公子のエピソード、そして、かぐや姫が地上を離れる際の場面とその後の帝の行動が掲載されている。教科書に載っていない部分については補助資料を与え、全体のあらすじについても確認し、物語自体の面白さも味わせたい。

作品の持つ魅力の一つとして登場人物の人物像の面白さが挙げられる。かぐや姫や五人の貴公子像から、現代にも共通する人間の姿や心のあり方を読み取り、古典作品を身近に感じることによって、古典への興味・関心を持たせ、学習に取り組ませたい。

平成30年度の全国学力・学習状況調査における「読む能力（古典）」の結果によると、本校生徒には「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」ことに課題があることがわかった。それを受け、指導にあたっては、まず、作品の描かれた時代背景やそこに生きる人物の心情を読み取らせるために、場面毎の状況を捉えたとうえで、情景や人物を描写する語句や表現に着目させ、そこでの人物の行動や心の動きを読み取らせる学習を進めていく。物語の結末部では、天上界に帰還するかぐや姫の心情について、交流の場を通して、他者の考えとの相違点や共通点に気づき、自らの考えを形成していく活動をさせる。次に、その読みを深めさせるために、学習過程に「知識構成型ジグソー法」を取り入れる。各エキスパート活動において、天上の世界、地上の世界のそれぞれのありようを本文と補助資料から読み取らせる。ジグソー活動やクロストーク活動においては、エキスパート活動で考えたことをもとに、作者がすばらしいと思っている世界はどちらの世界なのか、比較・討論させることで、生徒の思考力・想像力を高め、「竹取物語」がもつ魅力を捉えさせたい。これらの活動により、文脈からの正当な根拠をもとに登場人物の心情を読みとらせ、物語を通して作者が読者に伝えたかったメッセージについて迫らせたい。

【本時の主眼】

地上に住む人間には、心の醜さやずるさがある反面、互いに心を通わせることのできるすばらしさや、大切な人を思う心の美しさがあることを読みとらせ、筆者が描いた物語の世界を通して「人間の心のありよう」のすばらしさに気づくことができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙、単元シートで提案。（1年5組と同じ）

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

人間の営みには美しくあたたかな愛があること、また欲しい物を手に入れるために虚言を弄したり、束縛をしたりするといった人間の醜い心を、作品中の人物の言動から捉えることができる。また、美しい愛や、人間の中にある醜く汚れた心は今も昔も人間の中にあり、変わらないということを読み取ることができる。

5. 児童生徒の既有知識、学習の予想

生徒の多くは、文章中の人物について、描写をもとにその人物の心情や行動を捉えることはできるが、内面にある深い心情を捉えることはまだ難しいと考える。

よって、場面の展開にそって、登場人物相互の関係を読み取らせ、おのこの人物における言動からその心情を丁寧に読み取らせる。そのことが、地上界の人々が持つ心の醜さと美しさの両面に気づくために必要な手立てだと考える。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

筆者は地上世界のすばらしさを伝えたかったと思う。理由は地上世界に住む人間は、心というすばらしいものを持っているから。心を持つ人間は、時に人をだましたり恨んだりする醜さもあるが、他者の気持ちに寄り添ったり、慈しんだり、相手を大切に思うことができる。対して天人は心がないため、人と人が別れを嘆き悲しむ心を理解することができない。作者はこの作品を通して、心を持って生まれた人間が住む地上は、すばらしい世界であることを読者に伝えたかったのだと思う。

A	B	C
物語の登場人物の心情について、人物の関係性や言動から読み取ることができる。また、地上界での人々の営みと、天上界のあり方を比較しながら、心を持つことのすばらしさ、人間の世界の美しさについて、根拠をもとに書くことができる。	物語の登場人物の心情について、人物の関係性や言動から読み取ることができる。また、地上界での人々の営みと、天上界のあり方を比較しながら、心を持つことのすばらしさを書くことができる。	物語の登場人物の心情について、人物の関係性や言動から読み取ってはできるが、地上界での人々の営みと天上界のあり方を比較しながら自分の考えをもつことができていない。

7. 学習のデザイン

時間	学習活動	支援等
10分	<p>1 【導入】</p> <p>○本時の課題を確認する。</p> <p>○「竹取物語」は天上界と地上の世界を描いた物語であることをふまえ、作者がどちらの世界を素晴らしいと思っているかについて、個人の考えをワークシートに記入する。</p>	<p>○エキスパート活動を円滑に行わせるために、前時までに取り組んだ作品の内容を想起させる問いかけをする。</p> <p>○現時点での判断を理由と共に書かせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題 「作者が素晴らしいと思っているのは天上の世界か、地上の世界か。」 </div>	
25分	<p>2 【エキスパート活動】</p> <p>※それぞれのエキスパートでの課題について、根拠となる記述をもとに考える。</p>	<p>○登場人物の心情や、人間関係について考えを持たせるために、作品中の登場人物の言動に注目させ、行間を読み取らせる。</p>

5分	<p>・エキスパートA</p> <p>【作者は地上をどのような世界として捉えていたのか？ 五人の貴公子の言動から考えよう】</p> <p>「五人の貴公子について、それぞれの場面の台詞を想像しよう。」</p> <p>・エキスパートB</p> <p>【別れに際して、かぐや姫に対する、翁と帝はどんな気持ちか？】</p> <p>「かぐや姫との別れに際する二人の言動に着目して、それぞれの気持ちを考えよう。」</p> <p>・エキスパートC</p> <p>【天上界とはどのような世界か？】</p> <p>「天人の言動に着目して、考えよう。」</p> <p>3 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○エキスパートAでは、五人の貴公子の姿から、人の心の醜さやずるさの他に、真っ直ぐに努力する姿を読み取らせ、人間の感情には清濁があることを認識させる。</p> <p>○エキスパートBでは、翁と帝がかぐや姫との別れを惜しみ悲しむ姿から、人が人を思うことで悲しみに暮れることや、愛しいと思える心を、美しいものであることを読み取らせる。</p> <p>○エキスパートCでは、かぐや姫が翁や帝との別れを惜しみ、悲しむ姿を理解できない天人の姿を読み取らせることで「心を持たない天人」のありようについて認識させる。</p> <p>○本時の学習を振り返り、本時と次時の学習内容を関連づけるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。</p>
本時 5分	<p>1 【導入】</p> <p>○本時の課題を確認する。</p>	<p>○エキスパートでの話し合いを思い出すために、前回自分自身が書き込んだプリントや各エキスパートで考えた記述を見て確認させる。</p>
20分	<p>課題 作者がすばらしいと思っているのは天上の世界か、地上の世界か。</p> <p>2 【ジグソー活動】</p> <p>※根拠となる記述をもとに、それぞれ地上の世界、天上の世界について課題に取り組む。</p> <p>○A⇒B⇒Cの順番で、それぞれのエキスパート活動で出された考えを交流し、課題について考える。「物語を通して、作者が読者に伝えたかったこと」について3つの視点から意見を出し合い、まとめていく。</p>	<p>○ジグソー活動を活発にさせるために、エキスパート活動で交流した情報をグループ内でしっかり伝達させる。</p> <p>○個人の意見をまとめやすくするために、グループで話し合った内容はメモをとらせる。</p>
15分	<p>4 【クロストーク活動】</p> <p>○グループごとに発表する。</p> <p>○他のグループへ質問したり、意見を発表したりする。</p>	<p>○次時の、竹取物語の魅力について考える活動に繋げさせるため、各グループの考えをプリントにまとめさせる。</p> <p>○課題について、考えが曖昧なグループから指名し、疑問に思うことを自由に述べさせ、活発に意見交流させ、他者の考え方や見方に触れることにより、自分の考えを深めさせる。</p>
10分	<p>5 【振り返り】</p> <p>○学級で意見交流した後に、個人の考えを書く。</p> <p>○単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○本時の学習を振り返り、本時と次時の学習内容を関連づけるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。</p>

8. 各エキスパート・ジグソー＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパート・ジグソーで押さえないポイント、そのために扱う内容・活動＞

エキスパートA

【作者は地上をどのような世界として捉えていたのか。五人の貴公子の言動から考えよう。】

五人の貴公子について、それぞれの場面での台詞を想像する。

(例) (石作りの皇子) 3年後、大和の国(奈良県)の山寺にあった鉢を「仏の御石の鉢」として持参するが、輝きがないことから、偽物だと見破られてしまう。

「本物は、輝きがあるのか・・・?! 知らなかった・・・どうしよう。」

→このように、皇子の求婚エピソードにおいて、皇子の言動から台詞を想像して書く。

Q. 地上に生きる人の「心」とはどんなものか。

A. 地上界の人の心には欲というものがあり、手に入れたいものに対して誠実な者もいれば、嘘をついたり、ずるい方法で手に入れたりしようとする者もいる。しかし、人を「好きだ」と思うことができる。

エキスパートB

【別れに際して、かぐや姫に対する、翁と帝の気持ちを考えよう。】

かぐや姫への思いがわかる翁と帝の言動を通して、二人の気持ちをまとめる。

エキスパートC

【天上界とはどのような世界として描かれているか考えよう。】

Q. 天上界の人々の言動を探そう。

A. 「きたなき所の物きこしめしたれば、御心地あしからむものぞ」「遅し」「心もとながりたまふ」など

Q. 天上界とはどんな世界だと考える?

A. 死なない世界、人間のような感情がない世界 など

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

「竹取物語」が千年以上もの間、読み継がれてきた理由を600字以内でまとめよう。

10. グループの人数や組み方

男女混合の3人班。

授業開始時は普段の一斉授業の隊形で着席→席が近い者で3~4人ずつの12個のグループに分ける。

→その12グループにNo.1~12の番号を割り振り、これをジグソー活動をするグループとする。

→それぞれのグループの3人(4人)をA、B、Cに振り分け、エキスパート活動の座席に移動させる。

→エキスパート活動後、もとのNo.1~12のジグソー班に戻り、課題について考える。

→クロストークを行う。

※特に生徒の人間関係や知識理解での編成は行わない。

※单元シートは、1年5組の指導案のあとにあります。